

平成30年度在宅療養連携会議 第3回全体会議 会議録

1. 開催日時 平成30年11月9日（金）午後7時00分～8時40分
2. 開催場所 ウェルシティ市民プラザ3階 保健所第1研修室
3. 出席者 【構成員】千場 純、磯崎 哲男、西山 和彦、塚本 久美、豊田 茂雄、
上田 尚、山岸 千花、柏木 孝子、諏訪部 弘之、亀田 浩司、
澤藤 加与子、斉藤 かがり、向井 洋子、佐野 美智子、吉野 桂、
毛利 智恵、小貫 朗子、田中 知己、川名 理恵子
(敬称略、名簿順)
【オブザーバー】横須賀市社会福祉協議会 小山 由紀
健康福祉財団 小澤 充
福祉部介護保険課 鈴木 享
消防局救急課 鈴木 由美子

【事務局】健康部地域医療推進課 竹本 豊、箕崎 真吾、小知和 千弘

【傍聴者】2名
4. 開 会 座長の司会で開会した。
5. 傍聴者・配布資料の確認、報道機関取材の紹介
事務局から、欠席者の報告、オブザーバーの紹介、取材者の紹介、傍聴人数の報告、および配布資料の確認を行い、その後、取材者の参加許可を得た。

〔資料一覧〕

次第

- 資料 1-1 平成30年度在宅療養シンポジウム開催要領
- 1-2 平成30年度在宅療養シンポジウムチラシ（案）
- 資料 2-1 平成30年度多職種連携のためのセミナー（介護保険）企画書
- 2-2 平成30年度多職種連携のためのセミナー（介護保険）チラシ
- 資料 3-1 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー企画書
- 3-2 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー参加者数
- 3-3 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー
第1回トピック講座アンケート結果
- 3-4 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー
第2回トピック講座アンケート結果
- 資料 4 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況

- 資料 5 まちづくり出前トーク実績一覧
資料 6 平成30年度センター連携拠点事業推進状況
資料 7 平成30年度ブロック連携拠点事業実績
資料 8 平成23～31年度在宅医療・介護連携推進事業一覧

報告資料1 消防局より

6. 横須賀市消防局救急課からの報告

資料を基に救急車の適正利用、予防救急等について横須賀市消防局の救急需要対策に関する取り組みの説明があった。

〔説明要旨〕

救急要請件数は年々上昇しているが、救急搬送の半分は入院を必要としない軽症者となっている。救急車を呼ぶほどではないが、自分や家族だけでは病院への通院等ができない場合は、民間の介護タクシーの利用をお願いしたい。

自宅での事故は主に転倒や転落、食べ物による窒息、入浴中の事故等で、特に高齢者は重傷につながる場合がある。転ぶ、滑るは事前に予防することができるものであるので予防救急をお願いしたい。

救急車を要請する目安のチラシも作成している。救急要請する際の参考にしてほしい。

救急車が必要な傷病者情報の項目を記載するシートを消防局で作成した。これは、救急隊が病院に連絡するときに必要な情報となる。独自のものを作っていなければ利用して欲しい。

7. 議題

1) 各専門部会からの報告

(1) 広報啓発検討専門部会 Aチーム

「みんなで支える在宅療養シンポジウム」について、川名部会長から資料1-1、1-2に基づき報告があり、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

基調講演の講師は前回までに報告したが、その他のパネルディスカッションの内容等について報告する。

今年度の定員は400名とし、今回から、事前申込制とした。

申し込み開始日は12月11日（火）から横須賀市コールセンターで受付ける。

電話・FAXのほかインターネットで申し込めるようになる。

開催日時・会場は、1月27日（日）13：00～16：00に汐入のヨコスカ・ベイサイド・ポケットで実施する。

シンポジウムの全体テーマは、「穏やかな旅立ちのために」として、第1部の基調講演は、特別養護老人ホーム芦花ホーム 石飛幸三 医師をお願いしている。

第2部のパネルディスカッションのテーマは、「平穏に旅立つための支援と準備」とした。

パネルディスカッションのコーディネーターを横須賀市医師会副会長の千場純医師をお願いしている。パネリストは、

①野村内科クリニック

野村 良彦 医師

- ②興寿苑訪問看護ステーション 後藤 美恵子 看護師
- ③日本医療伝導会衣笠病院グループ 大野 高志 チャプレン
- ④横須賀市地域医療推進課 川名 理恵子の4名

野村医師には、本人・家族を在宅医師として支えることについて、後藤看護師には、病院、施設、訪問看護の経験から、病院、施設、在宅のそれぞれの視点からの事例について、大野チャプレンには、精神的な支援について、横須賀市地域医療推進課からは、横須賀市の現状の説明後、市の取り組みやリビング・ウィル等を紹介しようと考えている。

今年も市内在宅医紹介の場を設ける予定。現在、医師会から登壇希望医師を募集している。

来年度のシンポジウムの日程については、平成32年（2020年）1月26日（日）を予定している。内容はこれから詰めていく。

（2）連携手法検討部会 Bチーム

磯崎部会長から資料2-1、2-2に基づき、多職種連携セミナー（介護保険）の概要について報告があった。

〔説明要旨〕

このセミナーは、5月に実施したケアマネアンケートの意見の「医師に介護保険について知ってもらいたい。」という要望を受けて企画した。

医師会の他に、歯科医師会と薬剤師会も共催して、医療者に対して介護保険の説明を講義形式で行う。

日時は、11月15日（木）19時00分～21時00分で開催する。

現在150名の応募があり、会場を生涯学習センターの第1学習室から大学学習室へ変更するほど想定を上回る応募となっている。

今までは、介護職に医療の情報を伝えるものはたくさんやってきたが、今回は医療職に対して介護保険の情報を出していく企画として先に進んだと考えている。

介護保険の仕組みなどについて理解を進めていきたいと思う。

（3）研修・セミナー検討専門部会（Cチーム）

諏訪部部会長から資料3-1から3-4「平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー企画書」等に基づいて説明があり、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

①ケアマネジャーのための在宅療養セミナー開催経過について

ケアマネジャーのための在宅療養セミナーは、介護職に医療の知識を付けてもらうために例年行っているもの。

年間のテーマを「ケアマネジャーが対応に迷う時」として実施している。

第1回は「緩和ケア」第2回は「神経難病系疾患」第3回は「心肺蘇生講習会」としている。

基礎講座と年3回のトピック講座を企画し、第3回トピック講座以外はすでに実施した。

前回の全体会議で、トピック講座の企画や基礎講座の結果については報告済みである。

第3回トピック講座は、テーマ「心肺蘇生講習会」として、1月24日に開催予定。

講師は、横須賀市消防局救急課の職員にお願いしている。

第1回、第2回は講義とグループワークの形式であったが、第3回は、講義と実習を行う予定である。

第1回、第2回トピック講座については、アンケート集計が終わったので、参考に本日の資料として配布してある。

アンケート結果を見ると、経験年数に応じて横須賀市が専門職の連携が進んでいることが分かる。日中の開催にしたり、グループワークを行ったり満足度の高い研修となっている。

②ヘルパー対象の介護職のための在宅療養セミナー開催経過について

ヘルパー対象のセミナーは、全3回を講義形式で予定されている。

各回とも、介護職の医療面でのスキルアップを目的に、在宅療養の現場で役立つ医療に関するテーマが設定されている。

横須賀市健康福祉財団が主催して、今年度も第2回まではすでに実施された。

H30年度の各回のテーマは、第1回は「食中毒予防と水分摂取」、第2回は「心肺蘇生講習会」、第3回は「人工透析」とされている。

〔質問、意見等〕

なし

2) 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況報告

事務局から資料4～7に基づき、各種事業実施状況について説明を行い、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

① 病院職員対象在宅療養出前セミナー（資料4）

今年度の実施状況は、現時点で2件である。前回の会議で申込みを受けている旨を報告させていただいていたが、パシフィックホスピタルで実施し、44名の参加があった。主な内訳は医師5名、看護師20名、看護補助3名、ケアマネ4名、その他PT等12名となっている。

また、申込を3件、①うわまち病院 ②横須賀共済病院 ③湘南病院からいただいている。

② 在宅医同行研修（資料4）

医師会から12名の先生に講師として、ご協力いただいている。

本研修の実施状況は7件、6名の方に研修を受けていただいている。

受講者の職種は、医師、看護師となっており、今年度から対象を拡大した病院勤務コメディカルの参加はない状況である。

病院勤務コメディカル含め、診療所医師など、お知り合いで、ご興味を持たれた方がいれば、地域医療推進課まで知らせていただくようお願いする。

③ まちづくり出前トーク（資料4、5）

市の職員が申込者のもとへ伺って話をする出前トークについては、10月までに16団体で実施し、392人の方の参加があった。11月以降、2件の申し込みがある。

前回お話しがあった出前トークの実施場所について資料5に一覧にしたので報告する。

資料5の1枚目が出前トークをはじめた平成24年度から現在までの年度別実績になっている。2枚目が実施場所別の集計となっている。ブロック拠点別、行政センター別、町別に開催回数と参加人数を集計している。

テーマにリビング・ウィルを加えたこともあり平成30年度が年度途中の現在でも一番多くなっている。トータルで96回、参加者は、3,714人となっている。

資料2枚目の1番のブロック拠点と2番の行政センターの集計を見ると、前回のお話しに出たように、東ブロック、浦賀、久里浜地区の開催が多い傾向であることが分かる。

3番の町別では、4回以上の開催場所を網掛けにしている。

会場がコミュニティセンターや行政センターになることが多いため、大津、久里浜、長沢、夏島、本町が多くなっている。その他は町内会館の利用がほとんどである。

小人数のグループでも伺っているのでご紹介いただきたい。

④ 在宅療養センター連携拠点事業進捗状況（資料6）

1. 多職種合同研修会については、前回報告したとおり170名参加頂いた。

2. 3. の各システムの運用状況は、資料のとおりとなっている。

4. 街角在宅医療講座については、医師会の医師が講師となって町内会等に伺うものである。10月31日までに2回実施され、82名の参加があった。また、1件の申し込みを受けている。

5. 「よこすかリンクパスポート」は、1,000部増刷している。

6. 病院長会議は10月3日に開催した。

7. 市民公開講座だが、平成31年2月23日（土）13時から、長尾クリニック院長 長尾和宏氏を講師として招き、認知症をテーマに開催を予定している。

⑤ 在宅療養ブロック連携拠点事業進捗状況（資料7）

資料7について、これまでの各ブロック拠点の活動についてまとめていることについて報告があった。

⑥ その他

資料4に基づき、今後の予定について以下の3点報告があった。

（1）多職種連携のための認知症セミナーを平成31年2月13日（水）、19時から開催する。

場所は、生涯学習センター大学習室を予定している。（後日、2月15日（金）に変更）

（2）医師のための在宅医療セミナーを平成31年3月20日（水）19時30分から開催する。

場所は、生涯学習センター第1学習室を予定している。

講師は神奈川県警察本部の方と久里浜医療センター精神科の永田医師にお願いをしている。

（3）薬剤師会が進めているネイビーバッグの活用についての多職種連携セミナーを開催できないかCチームで検討している。

〔質問、意見等〕

なし

3) 平成 31 年度事業予定について

事務局から資料 8 に基づき、各種事業予定について説明を行い、特に異議なく承認された。

この連携会議で検討し、実施してきた事業を評価するため、退院前カンファレンス（シート）の実施状況の評価をすべきではないかとの意見が出され、評価方法を含めた今後の検討は、B チームで行うこととした。また、本件について、調査が必要な場合は、横須賀市と在宅療養連携会議名で行うことを確認した。

〔説明要旨〕

- ・平成 31 年度については、新規事業は行わず、既存事業の周知や改良に取り組む予定である。
- ・まちづくり出前トークなどの機会を利用し、リビング・ウィルの考え方や、記入時の注意点等を直接説明してお渡ししている。来年度以降もリビング・ウィルの周知を進めていきたいと考えている。
- ・在宅医同行研修は、今年度から研修受け入れ枠の増加、受講対象者を拡大しており、制度の周知を進めていく。
- ・その他として、平成 29 年度末から在宅医療・救急医療連携における検討会を実施している。在宅医療関係者や消防機関、救急医療機関との間で、患者の病状や希望する療養場所、延命治療に対する意思などの患者情報を共有し、共通認識を持てるように連携体制を構築することを目的に、課題に対し解決策を検討していく。

〔質問、意見等〕

座 長：退院前カンファレンスと同じように、担当者会議のルール作りは怎么样了のか。

事務局：退院調整ルールの時のようにワーキングの形式は取っていない。多職種合同研修会や各種研修会等を通じて多職種のみな様から意見をいただいきたいと考えている。

座 長：今まで作ったエチケット集などの評価はどうするのか。質と数の問題であると思う。退院前カンファレンスの実施状況として、どのくらい行われているのか、5 年前とどのように変わったのかなどを比較できれば良いと思う。

時間の問題もある。退院前カンファレンスに長い時間がかかっていることもある。また開催できないこともある。

担当者会議はケアマネジャーの立場だと、何回も出席しないといけないことがある。

逆に医師が出席しないことがある。これらの会議は、意味があれば推進するが、意味がないのであれば手短にしたい。今後どのように考えていくのか。

川 名：退院前カンファレンスシートは平成 25 年度に作った。退院調整に関しては、よこすかエチケット集にも入っているが、入退院問題は取り上げられることが多いので、退院調整ルールとして抜き出して作った。

市議会でも、退院前カンファレンスがどの程度行われているのか評価すべきではないかとの声をいただいて検討すると答えたところである。そこで、退院前カンファレンスの実施状況などをどのように評価するかみなさまにお聞きしたい。

5 年前の退院前カンファレンスの実施状況と比較するのも難しいと思う。退院前カンファレンスに加算がつくようになったので、開催が増えたのではないかと考えられる。

座 長：一番わかりやすいのは、開催回数で比較するのがわかりやすいと思う。

川 名：(退院前カンファレンスシートをつくる前) 5年前の開催数を把握することが難しいと
考えている。カンファレンスが時間的に長いというお話があったが、カンファレンス
シートは30分で終わらせることを目標に作っている。

座 長：病院ではどこでカンファレンスを開くのか。病棟でやるにしても、やるやらないは、
どこで誰が決めているのか。

上 田：家族やケアマネから依頼があったら看護師に確認して決まるが、退院時に集まらない
場合は開催しない時もある。集まれるかたちで開催していることが多い。

豊 田：5年前のデータはあるのではないかと。算定していれば分かるはずである。

川 名：退院の数に対するカンファレンスの数が分かるのか。

座 長：できればすべての病院で分かれば良いが。

川 名：調査方法等については、今後ご相談する。

座 長：この会議で実施した事業の評価のためなので、この会議名で調査を行えばよいと思う。
評価方法等の検討は専門部会（Bチーム）で行う。

4) 第4回全体会議の日程について

構成員内で日程調整を行い、平成31年2月25日（月）19:00からの開催が決定した。

5) その他

横須賀地区栄養士連絡協議会から、今年の3月に実施した「栄養まつり」を今後も継続して
実施していくことについて多職種他団体へ共催、協力依頼があった。

他の構成員（多職種）からも賛同意見があり、今後、実施内容、開催時期、予算（補助、各
団体持ち寄り）等について、過去に実施した「医療と介護の見本市」を手本に検討していくこ
ととした。

また、各構成員は、持ち帰って参加の意向、実施方法案等の検討を行い次回の会議に持ち寄
ることを確認した。

〔意見等〕

- ・今年の3月に「栄養まつり」を開催したが、今後、継続して開催していくためには栄養士だ
けでは難しく、多職種の協力が必要と考えた。
- ・過去に行った「医療と介護の見本市」のように多職種の団体が集まって色々できたら良いと
思う。

8. 閉 会 座長の宣言で閉会した。

この後専門部会に分かれて会議を行った。

以上